

総合内科専門医研修ネットワークプログラム

1 はじめに

プログラムリーダー 富士宮市立病院 院長 米村 克彦

血液・尿検査法の開発や画像検査などの進歩によって、病態解明や診断法がより専門的になってきており、新しい治療薬の開発によって治療法もより専門的になっており、大学附属病院や大規模総合病院では内科領域を細分化しての診療が行われています。高齢化に伴って複数の疾患を合併している患者が増加し、専門的に、かつ総合的な診療を行う必要性が増し、このようなニーズに対応できるのが中～小規模総合病院の内科です。中～小規模総合病院は大学附属病院や大規模総合病院と診療所のすき間を埋める医療を行っています。このプログラムに参加している病院の内科医師は、それぞれの専門分野での研鑽を積んで専門医として活躍している一方で、地域住民のニーズに応じた総合的な医療も行っています。このような病院で研修を積むことにより、専門的な医療のみならず、総合的な医療の研修をすることができます。



2 特徴

縦割り診療科ではなく、一つの診療科（グループ）においてプライマリケアを中心としての診断・治療を行うことによって、全人的な医療を目指すプログラムです。

3 目的

専門的な診療に加えて、総合的で幅広い診療能力を身につけ、広い知識と練磨された総合内科医の育成を目的としています。

4 目標

総合内科専門医の取得を目標としています。

5 研修カリキュラム

日本内科学会『研修カリキュラム』に準拠します。

6 研修例

- 1) 研修は複数病院（2病院以上）で行います。
- 2) 基本的に、一つの病院での研修期間は1年間となります。
ただし、必要に応じて研修期間の延長・短縮は可能です。
- 3) 研修先病院の調整は、研修医の希望を配慮し個別に行います。

【例】

下記はあくまでも例であり、個別に調整します。

1 年目 □4 月 4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	□ 年 目 1 年目
	伊東市民病院											
2 年目	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
	国際医療福祉大学熱海病院											
3 年目	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
	富士宮市立病院											
4 年目					8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
	静岡がんセンター											

7 研修病院群

1) 教育施設

国際医療福祉大学熱海病院

国際医療福祉大学は4附属病院を有する。栃木に2病院、東京に1病院、熱海に当国際医療福祉大学熱海病院がある。これらの4病院は互いに協力関係にあり、初期研修医の場合には、選択科目においては、自由に4病院を選択できます。

当院は269床と中規模であるが、医師の数は60名以上と多数です。また各分野において著名な医師が揃っており、ほとんど主要な学会の指導施設に認定されています。きめの細かい、また最新の医学教育が行える環境を整えています。熱海は高齢者が多い土地で、日本の30年後の縮図でもあります。これからの日本の医療を支える医師がこの地から育っていくことを期待しています。当熱海病院は相模湾に面し、朝の曙光は絶景です。

沼津市立病院

当院は沼津市の公立病院で、500床の病院です。常勤医師総数は75人（+初期研修医9人）で、そのうち内科系医師は21人（内分泌代謝内科3人、消化器内科7人、呼吸器内科3人、循環器内科5人、血液内科1人、神経内科1人、健康管理科医1人）ですが、平成27年度にはリウマチ科の専門医が新たにメンバーに加わる予定です。そのなかで総合内科専門医の資格を持っている医師は5人です。それ以外にも総合内科専門医を目指している医師が何人かいます。消化器内科専門医でありながら総合内科専門医を目指すことができます。当内科に所属して研修することで多くの症例を経験することができ、技術も修得できて総合内科専門医になることが可能です。

また当院では新専門医制度の内科専門医育成を視野に入れて、病理部門の整備などに力を入れています。

当院は3次救命救急センターを併設していますので、救急医療を修得することもできます。

当院にすべての内科系の専門医がいるわけではありませんが、当プログラムに参加する病院群

でほぼすべての科をカバーしています。当院だけにこだわることなく、広く多くの病院で研修したいのであれば、それも可能です。

総合内科医を目指す方やそれからさらにサブスペシャリティーを目指す若い研修医の皆さん、是非この静岡県東部の総合内科プログラムに参加して、当院内科グループで研修して下さい。

富士市立中央病院

専門医 笠井健司(1981年 東京慈恵会医科大学卒)

藤井常宏(1984年 東京慈恵会医科大学卒)

木村哲夫(1991年 東京慈恵会医科大学卒)

山城秀樹(2000年 東京慈恵会医科大学卒)

当院内科には22名の常勤医師（消化器内科6名、呼吸器内科3名、腎臓内科5名、糖尿病・内分泌内科5名、血液内科2名、神経内科1名）と6名の非常勤医師が勤務しています。初診・救急、当直は内科系常勤医師全員で分担しますが、予約外来・入院では内科系診療科ごとに先生の高い医療の提供に努めています。このほか、循環器内科6名が心臓血管外科とともに循環器科を構成しており、ローテーションが可能です。

富士市唯一の基幹病院であるためにほぼ全ての疾患を診療しますが、サブスペシャリティごとに消化管内視鏡検査・治療、胆膵検査・治療、肝生検、インターフェロン治療、肝がん治療、気管支鏡検査、腎生検、透析関連手術、急性血液浄化、持続血糖モニター、各種内分泌学的負荷試験、血液・悪性腫瘍に対する化学療法が行われているほか、循環器科では冠動脈造影、冠動脈・末梢動脈インターベンションが多数例施行されています。

当院では初期診療から専門性の高い診療まで全てを経験することができ、優れた総合内科専門医として成長できる環境を備えています。

富士宮市立病院

日本内科学会指導医 米村克彦(認定内科医 1980年 浜松医科大学)、若原伸行(認定内科医 1994年 浜松医科大学)、勝呂清尚(総合内科専門医 1994年 福井医科大学)、榊間昌哲(総合内科専門医 1997年 埼玉医科大学)、川口由高(認定内科医 1997年 松医科大学)、森雅史(総合内科専門医 2002年 宮崎医科大学)、森岡 哲(2003年 琉球大学)

当地区での唯一の総合病院であり、救急医療の大部分を担っていることが大きな特徴です。消化器内科は悪性腫瘍、炎症性疾患、消化管出血、肝胆道疾患（当地区はウイルス性肝炎が多い）と幅広い診療を行っており、年間1000名の入院患者の診療を行い、循環器科は年間950例の入院患者と1000例に及ぶ冠動脈造影検査（インターベンションも含む）を行っております。腎臓内科は腎疾患のみならず、敗血症・多臓器不全、自己免疫疾患、薬物中毒、糖尿病・内分泌疾患などと幅広い領域の診療を中心に行っています。呼吸器、代謝・内分泌、血液、神経内科領域については非常勤医師による指導により内科全体で診療に当たっており、若い先生の診断・治療能力は明らかに成長しています。学会認定臨床検査医（非常勤医師）との協力で検査結果からの症例検討なども毎週行っています。

順天堂大学医学部附属静岡病院

2) 教育関連病院

伊東市民病院

温泉で有名な伊東市は健康回復都市としてPRし、多くの観光客やマリンスポーツを楽しむ方が訪れ、またセカンドライフをエンジョイしている方も多いところです。

当院は人口約7万人の伊東市唯一の急性期病院として、年間約3000台の救急車を受け入れるなど、重要な役割を果たしています。医師の初期研修の管理型研修病院であり、内科学会の教育関連施設になっています。

市立病院ですが運営は指定管理者である公益社団法人地域医療振興協会が行っている公設民営の形態です。

当院の内科には循環器、消化器、呼吸器、神経、リウマチ膠原病の専門医がいますが、各医師とも専門以外の患者様の診療も積極的に行い、症例検討も全体で行っています。これは救急外来に訪れる多様な疾患や問題を持った患者様への対応能力の向上に役立っています。まさに医師としての総合力を得るにはうってつけの環境です。

また地域医療振興協会では伊豆半島に4カ所のへき地診療所を開設しており、研修者の希望によりこれらの診療所での研修を受けることも可能です。

総合内科の実力を付けたいと思う後期研修医の皆様の参加をお待ちしています。

国立病院機構 静岡医療センター

当院は、内科系は一般内科、消化器内科、循環器科に常勤医師が10名勤務しております。総合内科専門医を目指す方、あるいは、幅広く内科の症例を経験したい方に後期研修医のサポートをしていきたいと思えます。

静岡県立静岡がんセンター

指導医 福田博之(1984年 鹿児島大学医学部卒)、渡邊純一郎(1991年 千葉大学医学部卒)、小野澤祐輔(1992年 弘前大学医学部卒)

専門医 福田博之(1984年 鹿児島大学医学部卒)、渡邊純一郎(1991年 千葉大学医学部卒)、小野澤祐輔(1992年 弘前大学医学部卒)、高橋利明(1990年 広島大学医学部)、池田宇次(1994年 香川医科大学卒)、飯田圭(1992年 自治医科大学卒)

当センターは、①がんを上手に治す②患者さんと家族を徹底的に支援する③成長と進化を継続する、の三つを基本理念として平成14年に開院した新しい病院です。

がん診療を行う内科系の診療科としては、主として化学療法を行う消化器内科・呼吸器内科・血液幹細胞移植科・女性内科、内視鏡的治療を行う内視鏡科、血管内治療やラジオ波治療などの治療を行う画像診断科、患者の苦痛緩和を行う緩和医療科があります。

また、これらの診療科をサポートする立場として、循環器内科、神経内科、感染症内科、内分泌代謝科、腎臓内科があり、がん患者を総合的に診療する体制をとっています。

総合内科専門医を目指す研修の中で、当院での研修を希望される場合には、期間・内容等、遠慮なくご相談ください。

8 病院群の実績（平成 26 年 1 月～平成 26 年 12 月）

〔基本情報〕								
	国際医療福祉大学熱海病院 ※	沼津市立病院	富士市立中央病院	富士宮市立病院※	順天堂大学医学部附属静岡病院	伊東市民病院※	県立静岡がんセンター※	静岡医療センター※
標榜診療科数	34	24	22	13	—	15	35	26
病床数(病院全体)	269	500	520	350	—	250	577	450
一般内科病床数	78	150	180	140	—	124	—	103
一般内科在院患者数(一日平均)	72	130	178	118	—	103.6	224	101
一般内科常勤医	15	21	25	17	—	12	36	11
一般内科指導医	8	10	11	6	—	6	3	3
内科死亡数	293	294	370	300	—	373	1003	211
内科剖検数	15	10	7	7	—	4	8	1
CPC(年間開催数)	6	5	5	5	—	4	3	1
救急車受入数(内科)	1039	1100	1633	1637	—	2223	222	1205

※は平成 25 年

〔実績〕 病院要約 9 分野(入院症例のみ)

	国際医療福祉大学熱海病院	沼津市立病院	富士市立中央病院	富士宮市立病院	順天堂大学医学部附属静岡病院	伊東市民病院
消化器	—	1203	2221	1168	—	725
循環器	—	805	1271	835	—	237
内分泌・代謝	—	105	263	85	—	76
腎臓	—	12	429	292	—	107
呼吸器	—	612	1602	110	—	481
血液	—	61	301	47	—	41
神経	—	90	631	7	—	224
アレルギー・ 自己免疫性疾患	—	102	66	32	—	32
感染症・中毒	—	65	125	562	—	121
入院数(延べ人数)	—	3055	6909	3138	—	4086

9 研修期間

3～4年間

10 プログラム参加者の要件

- 1) 総合内科専門医を取得する意思があること
- 2) 研修開始前に日本内科学会に入会すること

11 処遇

- 1) 身分
- 2) 給与
- 3) 健康保険等の福利厚生制度
- 4) 医師賠償責任保険
- 5) 休日等
- 6) 宿舎
- 7) 学会費用

原則として、研修する病院の規定に従う。

12 プログラム修了後の進路

- 1) 病院群への就職可能です
- 2) 関連する大学医局への入局へ推薦することが可能です

13 プログラム運営委員（◎：プログラムリーダー）

◎ 富士宮市立病院 院長 米村克彦（1980年 浜松医科大学卒）

専門領域は腎臓内科、血液浄化療法です。腎臓内科領域の中では、急性・慢性腎不全や水・電解質異常の病態生理・診断・治療を得意とし、血液浄化療法に関しては、多臓器不全、炎症性腸疾患、ウイルス性肝炎などの治療経験が豊富です。これらの領域以外にも腎臓内科領域で培った知識・経験を基に、貧血の病態解明、代謝・内分泌疾患や代謝性骨疾患の診断・治療も行っております。当院を含む総合病院や大学附属病院において、研修医から腎臓内科専門医を目指している若手医師の指導に、約25年にわたって携わってきております。病態生理を解明することによる診断・治療へのアプローチを伝えることができると自負しております。



静岡医療センター 内科診療部長 志田幹雄

総合内科専門医、循環器専門医、認定産業医

由利組合総合病院（秋田県）で内科の初期研修を行い、国立循環器病センターの心臓内科（レジデント）で研修しました。その後、大学院を修了し1999年より静岡医療センター内科に勤務しております。現在、幅広く内科系の患者に対応しております。

意欲のある後期研修医の参加をお待ちしております。

静岡県立静岡がんセンター 神経内科部長 福田博之（1984年 鹿児島大学医学部卒）

大学の医局に入るのが当然の時代に医学部を卒業しましたが、幅広い臨床経験を身につけることを

目標に、聖路加国際病院にて内科レジデント研修を行いました。内科の各専門領域をローテーションするのではなく、常に全ての領域の疾患の患者さんを診療する毎日を過ごすことで、病気だけを診るのではなく患者全体を診る医療を勉強しました。現在は、県立静岡がんセンター神経内科において、がん患者の神経合併症を中心とした臨床を行っています。当施設では、いわゆるプライマリーケア的な診療は行っていませんが、腫瘍内科、緩和医療の他にも循環器、神経、感染症などの研修も可能ですので、興味を持たれた方からのご相談をお待ちしております。

沼津市立病院 院長 後藤信昭（1975年 千葉大学医学部卒）

日本内科学会認定内科医 日本消化器病学会専門医 日本肝臓学会専門医
日本内科学会評議員

千葉大学第一内科で肝硬変のアミノ酸代謝を少し研究し、国立千葉病院内科を経て、1987年より沼津市立病院に勤務し、肝疾患を中心に消化器内科の診療をしてきました。現在7人の消化器内科医で少しずつ異なる専門分野を持ってやっていますが、後期研修医の先生には偏らずに、上下部消化管内視鏡や腹部エコー、腹部血管造影、ERCPなどがなるべく早く習熟できるように配慮しています。週1回の消化器カンファレンスでは、若い先生のプレゼンから教わることも多く、楽しいひと時です。総合内科医を目指す先生にとっても、腹部エコーや胃カメラを研修することは将来に役立つと思いますので、数か月でも希望されれば当科での研修を受け入れています。内科系臨床医は沢山の患者さんを受け持ち、患者さんから多くのことを学ぶことが大事と考えています。



富士市立中央病院 副院長兼内科部長（内科統括） 笠井健司（1981年 東京慈恵会医科大学卒）

認定内科専門医、総合内科専門医、日本腎臓学会専門医・指導医・学術評議員、日本透析医学会専門医・指導医、日本腹膜透析医学会評議員、エンドトキシン救命治療研究会幹事

私は東京慈恵会医科大学を卒業後聖路加国際病院内科レジデントとして勤務を開始し、先輩医師の厳しい指導やレジデント同志の切磋琢磨により鍛えられました。3年後大学に戻り、研究生活を送り、留学もしました。現在、大学を卒業して30年を超えましたが、今日までの20年余りはずっと現在の病院に勤務しています。内科全体で協力してあらゆる内科系疾患に対処していますが、後期研修医など若手医師のはたらきぶりは頼もしい限りです。皆が十分に力を発揮できるような環境を用意したいと思っています。



略歴：1975年山梨県立甲府第一高等学校卒業、1981年東京慈恵会医科大学卒業、1981年聖路加国際病院内科レジデント、1984年東京慈恵会医科大学第二内科入局、1987-1989年米国UCLA留学、1991年富士市立中央病院腎臓内科部長、2006年東京慈恵会医科大学准教授（派遣中）、2009年同副院長兼腎臓内科部長

静岡県立静岡がんセンター 循環器内科部長 飯田 圭